

電子版センターだより

令和5年11月30日（木）配信

Gunma Prefectural Board of Education Comprehensive Education Center

～あなたの知りたいがきっとある～

<掲載内容>

※各ページへは  を、トップページに戻る際は  をクリックしてください。

特別支援教育に関する希望研修

- ・特別支援教育充実研修講座
- ・発達障害児学習支援研修講座
- ・心理検査研修講座



教育研修員研修の紹介

- ・長期研修員
- ・特別研修員
- ・長期社会体験研修員



令和5年度 「ぐんま教育フェスタ」開催の案内

- ・オープニング
- ・研修員発表 ※集合・ライブ配信（Zoom）によるハイブリッド開催
- ・特別講演 齋藤孝教授（明治大学）

※特別講演の申込みはこのページからご確認ください。

※オープニング、研修員発表については申込みは不要です。



教育相談技術認定と 今後実施の希望研修の紹介



幼児教育センターより

- ・「夢中」を考える



カリキュラムセンターの紹介



お知らせ

- ・当センターへ来所される方へ
- ・編集後記



～一步前を見る 半歩前を進む～

群馬県総合教育センター

Gunma Prefectural Board of Education Comprehensive Education Center

2月3日(土)

ぐんま教育フェスタ

会場：群馬県総合教育センター 伊勢崎市今泉町一丁目233番地2

1 オープニング

9:00 ~ 9:15

2 研修員発表

9:25 ~ 10:50

※集合・ライブ配信 (Zoom) によるハイブリッド開催

3 特別講演

11:10 ~ 12:30

※集合・ライブ配信 (Zoom) によるハイブリッド開催



明治大学 教授 齋藤 孝

1960年静岡市生まれ。東京大学法学部卒。同大学大学院教育学研究科博士課程を経て現職。専門は、教育学、身体論、コミュニケーション論。『身体感覚を取り戻す』(NHK出版)で新潮学芸賞受賞。2001年に出した『声に出して読みたい日本語』(草思社、毎日出版文化賞特別賞受賞、新語・流行語大賞ベスト10)がシリーズ260万部のベストセラーになり、日本語ブームをつくった。著書に『読書力』(入試出題率1位)『コミュニケーション力』『新しい学力』(岩波新書)、『大人の語彙力ノート』(SBクリエイティブ)、『雑談力が上がる話し方』(ダイヤモンド社)等多数。「世界一受けたい授業」「Live News イット!」「全力!脱カタイムズ」等テレビ出演多数。NHK Eテレ「にほんごであそぼ」総合指導。著書累計出版部数は1000万部を超える。

✓特別講演の参加方法について

○総合教育センターWebページから、参加申込を行ってください。

※オープニング及び研修員発表については参加申込不要です。



講演の様子を県内教育関係者限定でYouTube配信します(2/9 24時まで)。視聴方法等については、センターWebページに随時情報を掲載しますので、ご確認ください。

群馬県総合教育センターWebページ
<https://center.gsn.ed.jp/>



○掲示コーナー

- ・特別研修員の研究内容概要版を掲示します。
- ・ぐんま教育賞入賞作品の紹介を掲示します。

○Webフェスタ特設ページ

令和6年2月3日から、以下の内容をセンターWebページに掲載します。自由に視聴いただき、今後の実践に是非お役立てください。

<掲載内容>

- ・長期研修員による研究内容概要版および研究発表動画
- ・長期社会体験研修員による研究内容概要版および研究発表動画
- ・特別研修員による研究内容概要版



たくさんの先生方のご参加をお待ちしております♪

教育研修員研修の紹介



教育の今日的課題の解決や実践的指導力の向上を目指した研修を通して、教員の資質向上を図るとともに、本県幼児、児童生徒の学力向上と健全育成に資することを目的としています。

長期研修員

長期研修では、国の動向や県教育委員会の指導方針を踏まえ、教育課題の解決に向けた研究及び研修を行っています。研究及び研修を通して、実践的な指導力や助言力を高めるとともに、研究協力校等や地域の中核として指導的な役割を担うことのできる人材を育成しています。

今年度は21名（小学校8名、中学校11名、高等学校1名、特別支援学校1名）が、各教科、道徳、特別支援教育、生徒指導・教育相談、ICT活用教育、多文化共生教育、高校教育の改善、日本語指導について研究を進めています。

【研修員のコメント】



中学校社会科の遠隔合同授業の実践を通して、自己肯定感がどのように育っていくのかを研究しています。先行事例が少ないので、試行錯誤しながら取り組んでいます。少しでも教職員の皆様のお役に立てる研究になるよう努めていきます。

片品村立片品中学校 倉澤 秀祥



道徳の研究領域において、発達障害について知り、考える「授業プログラム」を作成しています。「授業プログラム」は、目に見えない困難を抱えている児童が登場するオリジナル教材を用いた道徳科の授業を中心に構成され、個性を認め合える児童の育成をねらいとしています。これからの共生社会を担う子供を育成する道徳教育の実践的研究となるよう、努めていきたいと思っております。

富岡市立高瀬小学校 金井 智之



ICT活用教育の研究領域において、業務のICT化に視点を当て、組織的な教育DXの推進を図る研究を行っています。児童生徒情報（校内の所在など）の即時共有、会議資料の共同編集等、ICTのよさを生かした様々な資料を作成しています。それらを校内の各分掌から発信・提案することで、職員全体で協働的・継続的に教育DXに取り組む体制づくりを目指します。県内全域の学校で広く活用できる研究となるよう、努めていきます。

玉村町立中央小学校 木村 貴幸



生徒指導・教育相談の研究領域において「実態に基づいたソーシャルスキル・トレーニングを取り入れた学級づくりプログラム」を作成しています。ソーシャルスキル・トレーニングに含まれる非認知能力の要素とC&S質問紙の客観的児童理解を活用し、自他を尊重し一人一人が互いに認め合える児童の育成をねらいとしています。共感的な人間関係を育む学級づくりに活用していただけるよう、研究に努めてまいります。

太田市立宝泉小学校 野口 陽子



重度重複障害児を対象とした自立活動の時間において、学校卒業後の社会参画を目指した人と関わる力の育成を図る研究を進めています。学校と、重度重複障害者が利用する生活介護施設にアンケート調査を行い両方の視点を取り入れて自立活動の人間関係の形成と環境の把握の2区分に焦点化した実態把握表を作成しています。それを活用することで、教師が生徒の実態や変容を捉えやすくとともに、学校から社会へつながる自立活動の授業づくりを提案したいと考えております。

県立二葉高等特別支援学校 林 圭佐

特別研修員



「子供たちが主体的に活躍する授業を展開したい。」「子供の考える力を伸ばしたい。」・・・特別研修では、そのような思いをもった先生たちが研修をしています。今年度の特別研修では構想メモを基に研究を進め、その実現に向けて手立てを構想しました。授業検討会では長期研修員も加わり、デジタルホワイトボードを活用した熱のこもった検討会が繰り広げられました。その検討会をふまえ、より精錬された実践が10月から11月にかけて公開されました。実践授業終了後にもビデオリフレクションを行い、手立ての有効性を検討し、よりよい提案になるように研修を進めています。研修員の熱い思いのこもった研究成果を、ぜひセンターWebページよりご覧ください。
【<https://center.gsn.ed.jp/kensyuin>】

【研修員のコメント】

- ・指導主事や長期研修員の先生と話すことで、授業づくりへのヒントをたくさんもらえます。
- ・デジタルホワイトボードに意見が集約されているので、後から見返すことができ、その後の手立ての検討の際にとっても役立っています。
- ・「児童が自分の考えをもち、対話をすることで考えを深める」ための授業の工夫をしたことで、子供の様子が変わりました。



長期社会体験研修員

長期社会体験研修では、一年間、県内の企業において業務に取り組み、各企業の組織運営や人材育成などについて研修を行っています。また、キャリア教育を推進するための授業や校内研修を、研究協力校において実践しました。今年度は3名（義務籍1名、高校籍2名）が各企業で研修しています。

【研修員のコメント】



群馬ヤクルト販売株式会社に人材開発部に所属し、人材開発部の一員として、様々な部署で人材育成や健康社会の実現に向けた業務に携わっています。研究協力校では、人と人のつながりを大切にする行動について話し合い、自分の生き方について目標を宣言することで、「人間関係形成・社会形成能力」の向上を目指す授業を行いました。

前橋市立桃川小学校 志村 由香利



システム・アルファ株式会社にて、実際の業務に携わりながら、商業科の教師としての専門的知識（特に情報）を習得させてもらっています。授業実践では、キャリア教育の「人間関係形成・社会形成能力」の一つである、コミュニケーションに関して行いました。

県立前橋商業高等学校 引田 頼好



株式会社CLIMBの第3SI事業部でシステム開発業務の補助を行っています。実際のシステム開発の工程や環境構築を経験させていただき、教科の専門性を高めることができました。研究協力校では、生徒達自身で将来必要な資質・能力を考えてもらうことで「キャリアプランニング能力」の向上を目的として授業を実践いたしました。

県立太田工業高等学校 齋藤 早永

特別支援教育に関する希望研修



特別支援研究係では、特別支援教育に関してより理解を深めたり、知見を広げたりすることを目的として希望研修を行っています。今年度も通常学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校と幅の広い受講者の希望に沿えるように企画しました。7月と8月に実施した講座から報告します。

◎特別支援教育充実研修講座（集合研修・オンライン研修）

発表「卒業後の姿から見える「自己有用感」を高める指導支援の在り方」

発表者 群馬障害者職業センター 所長 岩佐 純 氏

パーソルダイバーズ株式会社 ジョブコーチ 國生 英輝 氏

特別支援学校高等部を卒業した後の生徒の様子や仕事に関して、お話いただきました。

職場環境に適應できる力、いわゆる、指示された仕事を考え、選択し、自分から取り組んでいく力や協調性について、自分で段階を踏んで身に付けていく「セルフマネジメント力」を育てていくことの大切さ、その支援方法についてお話がありました。また、働くことの根底にある「健康」や「日常生活の管理」を身に付けていくためのアプローチの仕方や一人一人に合わせた仕事をどのように提供しているのか等大変参考になりました。



講義「実行力のある特別支援教育体制の構築～小学校の実践から～」

講師 全日本特別支援教育研究連盟 研究部長 山中 ともえ 氏

東京都公立学校校長の御経験から、校内で取り組める特別支援教育体制について講義をしていただきました。

今あることを元にし、校内支援体制を見直すこと、通常学級の授業を充実させていくこと、ICT機器等を活用し、働き方を見直すこと、配慮が必要な子供たちを取り巻く周囲の理解を促進していくこと等、管理職の視点からお話をいただきました。できることから実施していくことの大切さ等、改めて参考になりました。



◎発達障害児学習支援研修講座（オンライン研修）

講義「医療の視点から先生方に伝えたい指導・支援の在り方～発達障害をもつ子供の診察場面より～」

講師 川崎西部地域療育センター 所長 柴田 光規 氏

医療的なアプローチや教育と医療の連携、実際の子供の事例等を交えながら、講義をしていただきました。「診断」は、子供を理解し、応援していくために役立てていきたいことであること、学校での子供の様子の保護者への伝え方、服薬の在り方等について、医師の立場からのお話をいただきました。違う視点から考えることも有意義だと感じるお話でした。



◎心理検査研修講座（オンライン研修）

講義・演習「Vineland-Ⅱ適応行動尺度検査の実施方法と結果の解釈」

講師 田園調布学園大学人間科学部心理学科 教授 黒田 美保 氏

県内の強度行動障害の研究にも使用されているVineland-Ⅱ適応行動尺度検査の実施方法と結果の解釈について、日本版作成者の一人である黒田先生に講義していただきました。

適応行動と発達特性を調べる個別検査との関係やアセスメントの大切さ、後半では、具体的な「Vineland-Ⅱ適応行動尺度検査」の実施方法等をお話いただきました。子供に対応している先生方が実施できる検査として、有意義な内容でした。



教員の「主体的な学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」が実現されるように、令和6年度の研修を企画していきます。来年度も多くの方に受講していただけると幸いです。

教育相談技術認定と今後実施の希望研修の紹介



教育相談技術認定は、昭和43年に創設され、半世紀以上の歴史をもつ群馬県独自のものです。

様々な課題や悩みを抱える子供たちや保護者との関わりにおいて、教育相談の考えを学んで信頼関係づくりに生かしていきませんか。

毎年、多くの教職員の方から申請があります。特に、中級取得後、指導的立場で活躍されている方々は、是非、上級取得を御検討ください。令和5年度教育相談技術認定の日程等は以下のとおりです。

令和5年度 群馬県教育研究所連盟 教育相談技術認定

申請資格

申請資格は、各級の①と②の要件を満たす者とする。

- (1) 初級（生徒指導・教育相談の基礎的な理論・技術を習得している者）
 - ① 学校又は教育研究所の教職員として2年以上の勤務経験を有する者
 - ② 「教育相談初級研修」を全て受講している者
- (2) 中級（初級取得後、生徒指導・教育相談の専門的な理論・技術を習得している者）
 - ① 初級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
 - ② 「教育相談中級研修」を全て受講している者
- (3) 上級（中級取得後、生徒指導・教育相談を指導的立場で実践している者）
 - ① 中級の認定後、学校又は教育研究所の教職員として3年以上の勤務経験を有する者
 - ② 次のア～ウを合計して3年以上の経験年数を有する者
 - ア 生徒指導担当、教育相談担当の経験
 - イ 教育研究所における相談業務（年間を通して週1回以上行ったもの）の経験
 - ウ 群馬県総合教育センター及び教育研究所における生徒指導・教育相談研修の講師・指導・助言の経験（年1回以上の経験を年度ごとに1年とする。）



申請期間及び締切日

- (1) 持参する場合（県立学校も所在地により、以下の時間帯に御持参ください。）
 - ・申請期間 令和5年11月28日（火）10：00～12：00（北毛地区<吾妻・利根含む>）
13：00～17：00（西毛地区）
 - 令和5年11月29日（水）10：00～12：00（東毛地区）
13：00～17：00（中毛地区）
- (2) 郵送する場合
 - ・締切日 令和5年11月29日（水）当日消印有効

申請書について

申請書は、当センターWebページからダウンロードして、使用してください。

【 <https://center.gsn.ed.jp/sodan/gijutunintei> 】

【ゲートキーパー養成研修講座について】

昨年度も多くの教職員の方が「ゲートキーパー養成研修講座」を受講していただきました。この講座は、自殺の危険性が高い児童生徒の早期発見、早期対応を図り、適切に対応することができる「ゲートキーパー」としての資質・能力の向上を図ることをねらいとしています。12月25日（月）に今年度最後の講座があります。

詳しくは、子ども教育相談係（0270-26-9217）へお問合せください。



カリキュラムセンターの紹介



当センター2階にあるカリキュラムセンターでは、特色ある教育活動の実現や授業の改善・充実などに役立つ教育資料・図書等を収集し、閲覧・貸出を行っています。

また、授業研究会や校内研修などへの指導主事の派遣や、総合教育センター所有の教材・教具の貸出・提供による研修支援も行っています。

特設コーナー 齋藤孝教授（明治大学）令和5年度ぐんま教育フェスタ特別講演講師



書名	出版社	出版年
「読む・書く・話す」を一瞬でモノにする技術	大和書房	2009/08/22
原稿用紙10枚を書く力	大和書房	2007/10/04
読書のチカラ	大和書房	2011/05/21
凡人が一流になるルール	PHP 研究所	2009/06/18
齋藤孝式学ぶための教科書	辰巳出版	2020/08/22

※上記他、齋藤孝教授が執筆された多数の書籍があります。

開館時間

【開室日】火曜日～金曜日（月曜日は閉室、祝日及び年末年始は閉室）

【開室時間】9:00～17:00

教育資料・図書等の貸出

- ・教育資料・図書等、約22,000冊を貸出しています。
- ・貸出数は一人5冊、貸出期間は2週間となります。



教育用ビデオ・DVDの貸出

- ・人権教育や情報モラル教育などの教育用ビデオ・DVD約600本を貸出しています。
- ・貸出数は一校につき3本、貸出期間は1週間となります。

研修支援隊

- ・各学校の要望に応じて、総合教育センターの指導主事が訪問し、教職員を対象に校内研修や授業改善等の研修を支援します。詳細は、カリキュラムセンターのWebページをご覧ください。

特集

- ・教育相談の書籍やお勧め本など紹介し、ボードにまとめています。

令和6年度に使用する小学校教科書用のブースを設け配架しています。

【問い合わせ】

電話：0270-26-9208

メール：karisen@edu-g.gsn.ed.jp（@は半角に）

カリキュラムセンターのWebページ URL：<https://center.gsn.ed.jp/karisen>→



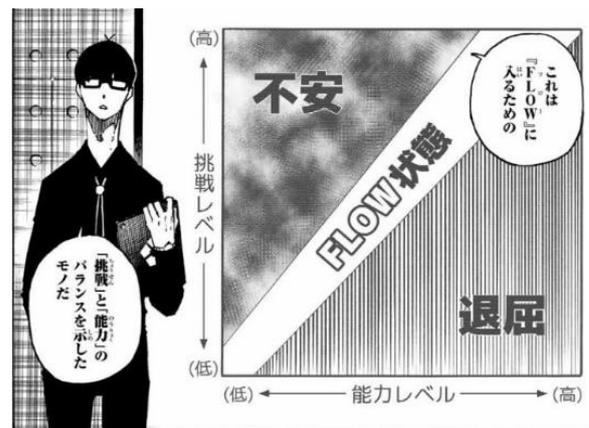
先日、ある園を訪問した際、幼児が縄跳びに挑戦する場面に遭遇しました。この園では、縄跳びに挑戦するときに乗るための台が置いてあって、そのときは三人の幼児が交代で挑戦していました。

一人の幼児は、何回跳べるかに挑戦。失敗してもくじけず、挑戦を続け、何度目かの挑戦で新記録を達成。笑顔で先生に駆け寄り、嬉しそうに報告していました。あとの二人は、二人で一緒に跳ぶことに挑戦。なかなかリズムが合わなかったり、跳んでいるうちに近付いてしまったり、なかなかうまくいきませんが、失敗すると顔を見合わせて大笑い。うまくいくための方法を相談しながら、何度も何度も挑戦します。

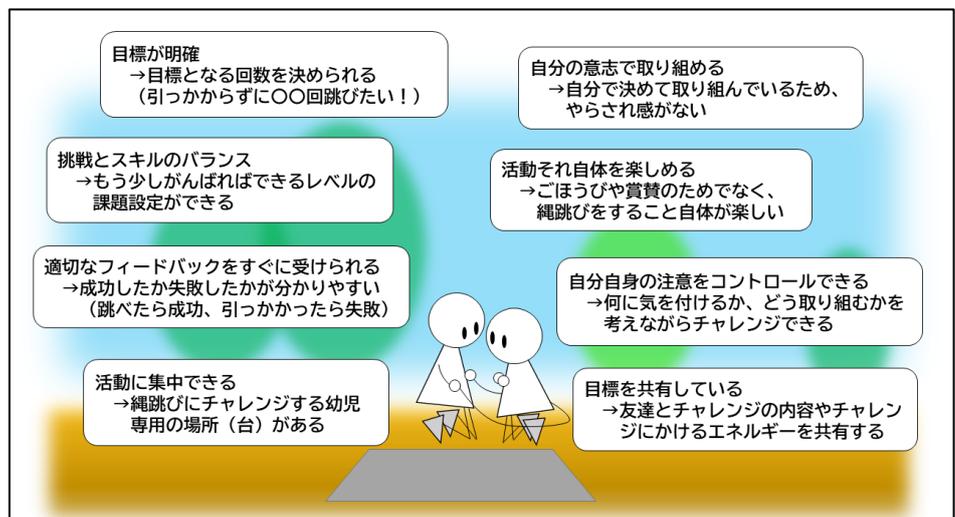
私自身も子供のころ、よく縄跳びで遊んでいたのですが、縄跳びに夢中になる気持ちに共感しながら楽しく眺めていたのですが、そもそも「夢中」とはどのような状態なのでしょうか。

「フロー」という言葉があります。これは心理学者のチクセントミハイが提唱した理論で、「対象に惹かれてその行為に集中し、楽しさや流れるよう行動していると感じる」状態です。身近な言葉で言えば「没頭」や「夢中」、「熱中」に近いでしょうか。漫画『ブルーロック』でも取り上げられたので、そこでご存じの方もいらっしゃるかもしれません。

フロー状態になるためには、自分自身の能力のレベルと挑戦のレベルが適度に釣り合っている必要があります。また、その際、いくつかの条件があります。それらを縄跳びの場面に当てはめてみましょう。（右図）



引用：『ブルーロック 13』金城宗幸 ノ村優介、講談社



これらの条件は必ずしも全て備わっていなければならないものではありませんが、一つ一つの条件は幼児教育で大切にしている「遊ぶ」と密接に関わっているものです。フロー状態は、充実感や達成感、活動に対する楽しさや面白さ、自己成長を引き出し、もっとその活動をしてみたいという意欲を高めてくれます。つまり、幼児が夢中になって遊ぶこと自体が、非常に価値のあることだと思うのです。

大人はつい、結果として生み出されたものに価値を見いだしがちです。もちろん結果も大切ですが、それよりも、今、目の前の子供が感じている「夢中」を大切にしたいものです。

参考文献『フロー体験入門 楽しみと創造の心理学』M.チクセントミハイ(著)、大森弘(訳)、世界思想社
引用：『ブルーロック』金城宗幸、ノ村優介、講談社

当センターへ来所される方へ



防寒対策のお願い

晩秋から冬にかけて、厳しい寒さが予想されます。
なるべく暖かく且つ温度調節が可能な服装（上着、ひざ掛け等持参）でお越しください。



交通事故防止への御協力を



当センターには、毎日多くの方が車で来所し、駐車場を利用されます。特にこれからの時期は、日暮れが早くなり見通しが悪くなります。センターへの出入り及び敷地内を走行する際は、車だけでなく歩行者にも注意していただき、交通事故防止への御協力をお願いします。

編集後記

早いもので、今年も、残すところ一ヶ月となりました。今年度、当センターでも、新型コロナウイルス感染症流行以前の日常を取り戻しつつあります。研修においても、オンライン研修と集合研修を組み合わせ、皆様に安心して質の高い研修を受けていただくために、今後も工夫・改善を図っていきます。

さて、今回お届けする電子版センターだより 35号では、「ぐんま教育フェスタ開催の案内」「教育研修員研修の紹介」「特別支援教育に関する希望研修」「教育相談技術認定と今後実施の希望研修の紹介」「カリキュラムセンターの紹介」「夢中を考える」等、各担当係から最新の情報を掲載しました。是非、これからの教育活動に御活用ください。

特に、今年度のぐんま教育フェスタでは、明治大学教授の齋藤孝先生を講師にお招きし、特別公演が行われます。今後の情報については、センターWebページをご確認ください。あわせて、研修員の方の発表にも参加していただければ幸いです。最後に皆様におかれましては、忙しい毎日をお過ごししかと思います。今年の冬は地球温暖化もあると思いますが、上空の偏西風が蛇行して寒気の流れ込みが弱く、気温は平年より高い予想になっています。しかし、インフルエンザは季節を問わず流行しており、油断できない状況です。

こんな時だからこそ、仕事の合間に暖かいものを飲んでほっと一息つく、短い時間でも周囲の人と楽しい話をするなど、心や体が温まる時間を大切にしていきたいものです。

(文責：A.S)

